

千葉県における産業医不足解消のための有効な方策の樹立

千葉産業保健総合支援センター

研究員名簿

研究代表者 千葉産業保健総合支援センター所長 能川 浩 二
研究分担者 千葉産業保健総合支援センター
産業保健相談員 諏訪園 靖

共同研究者

公益社団法人千葉県医師会産業保健担当理事 深沢 規夫
公益社団法人千葉県医師会産業保健副担当理事 松岡 かおり
千葉大学大学院環境労働衛生学 助教 能川 和浩

目的

千葉県における産業医不足への対策の確立

問題の認識：登録産業医の確保が困難

背景

千葉県の医師不足（10万人当たり医師数は
全国45位、全国平均値の72%）

企業が多い

方法

調査対象者

千葉県医師会認定産業医研修会に参加した医師全員

調査期間

2015年5月—12月、開催された研修会6回

調査内容

産業医活動の状況、産業医報酬、産業医活動の継続の意志、産業医活動を継続するために必要と考える事等に係るアンケート調査

調査方法

参加者が受付に来た際に質問紙を手渡し、研修会が始る前に調査の趣旨を説明し、休憩時間に記入し、終了時に受付に提出するように要請した。

調査結果

調査対象者

千葉県医師会主催日本医師会認定産業医研修会6回の参加者

参加者総数

816人

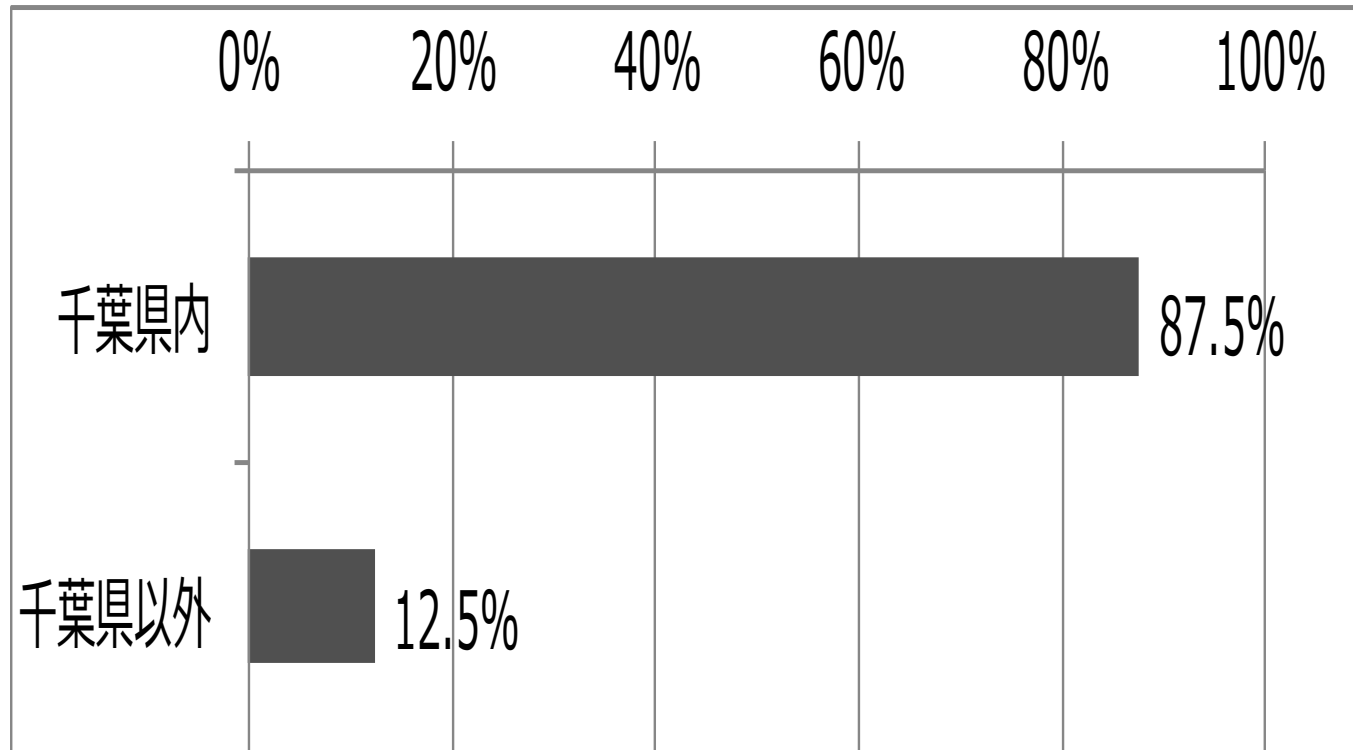
回答者総数

671人

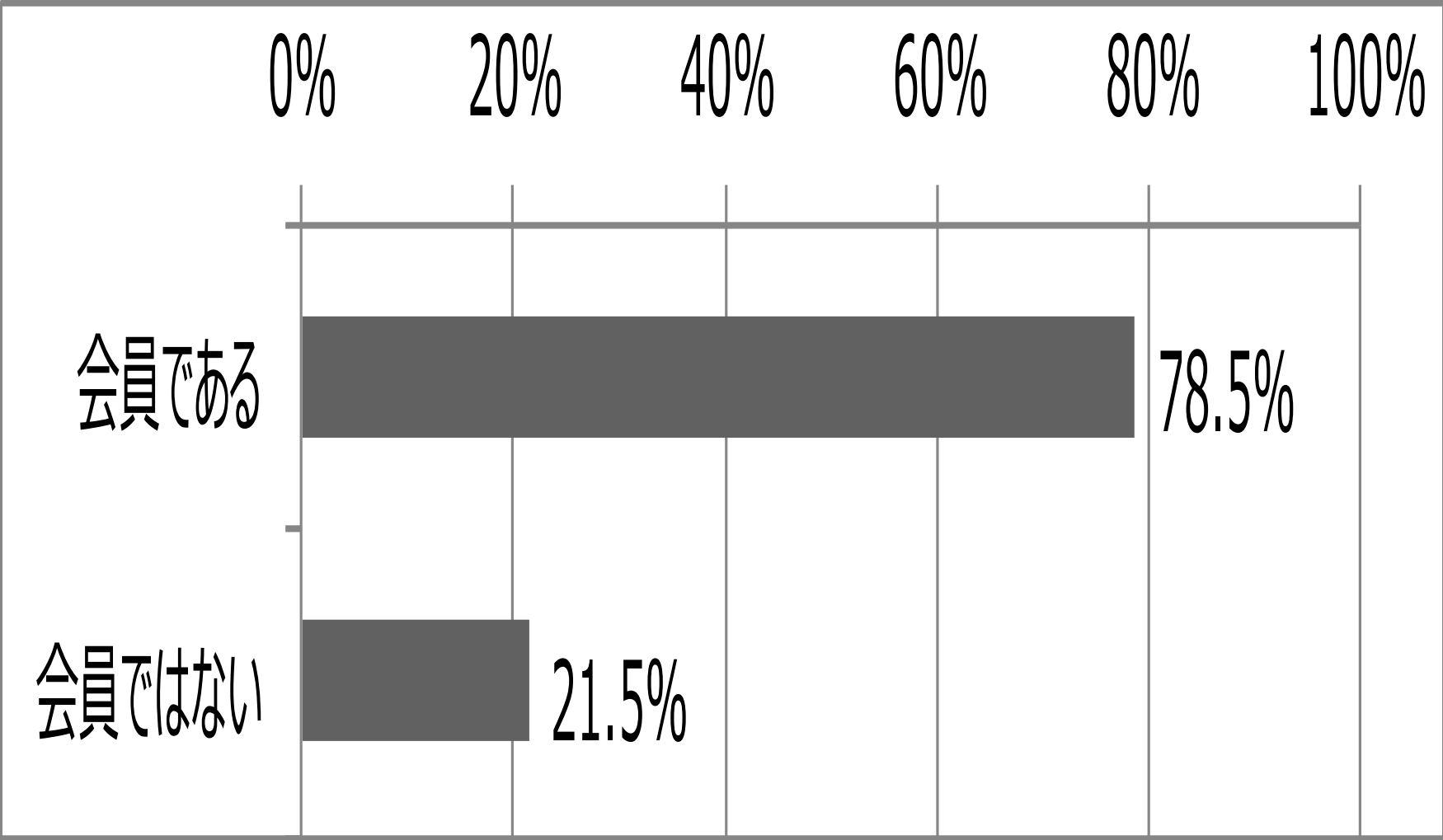
回答率

82.3%

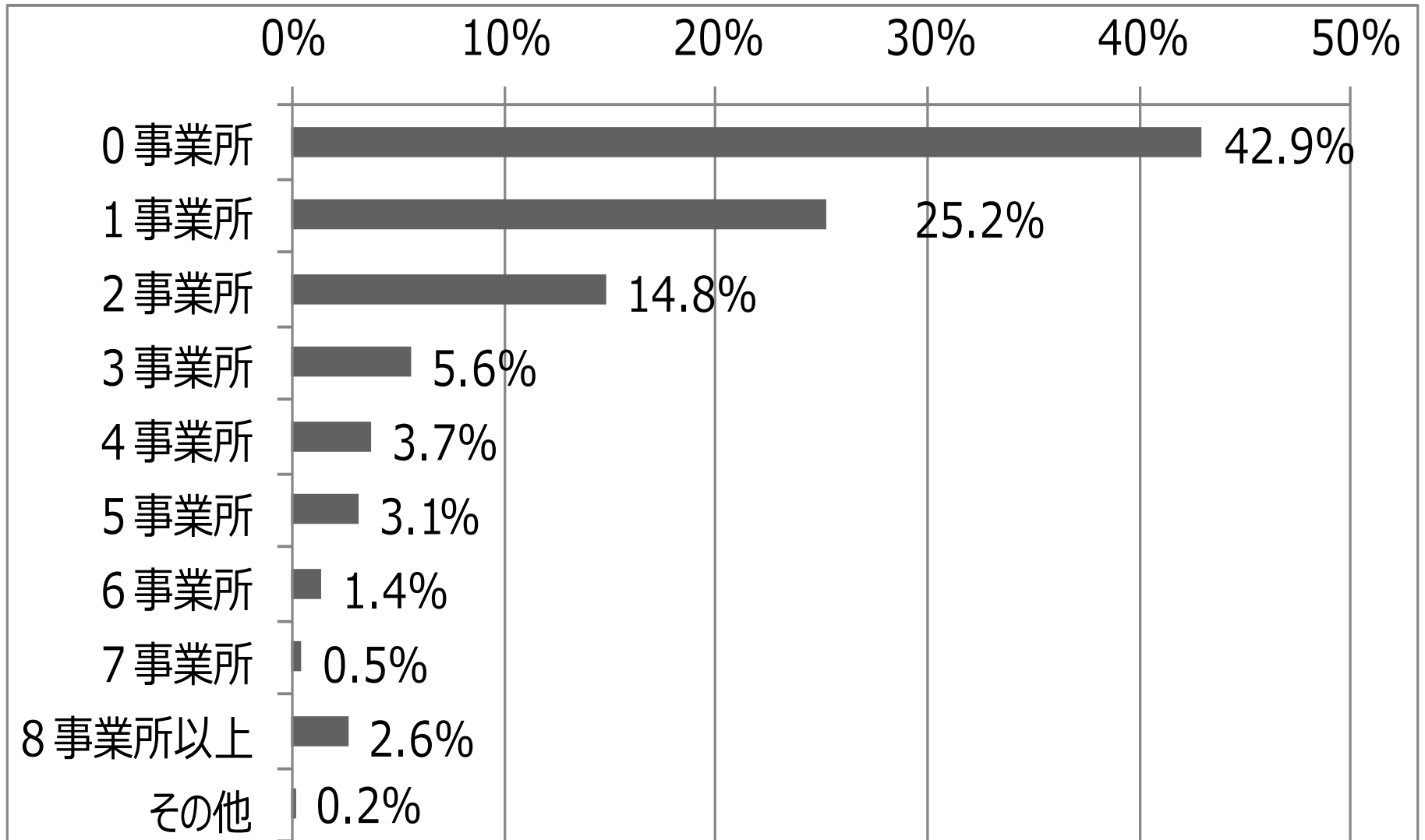
勤務地



医師会会員状況

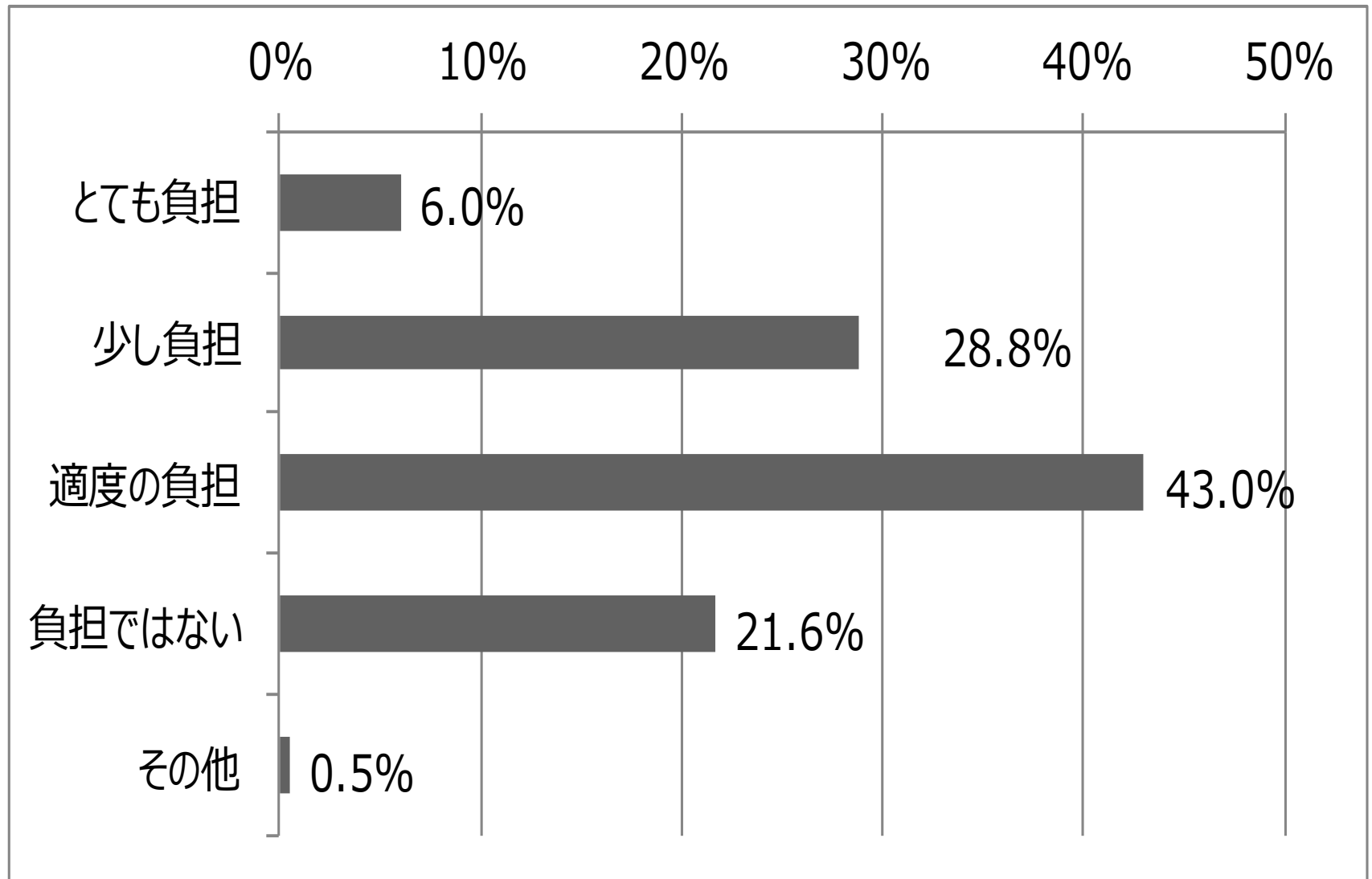


産業医として活動している事業所数



産業医活動の負担

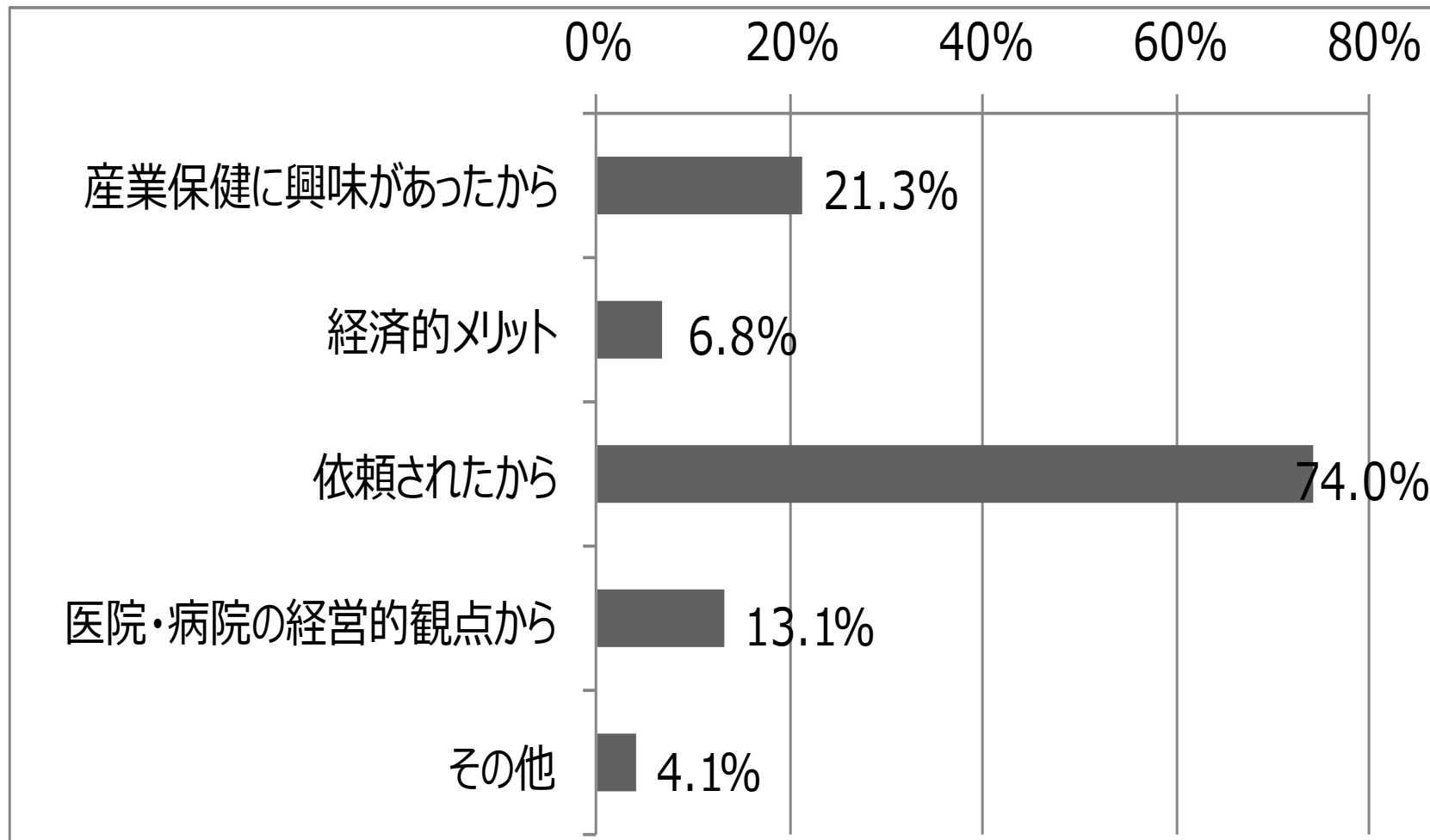
(産業医として活動をしている医師のみの回答)



産業医活動を始めた動機

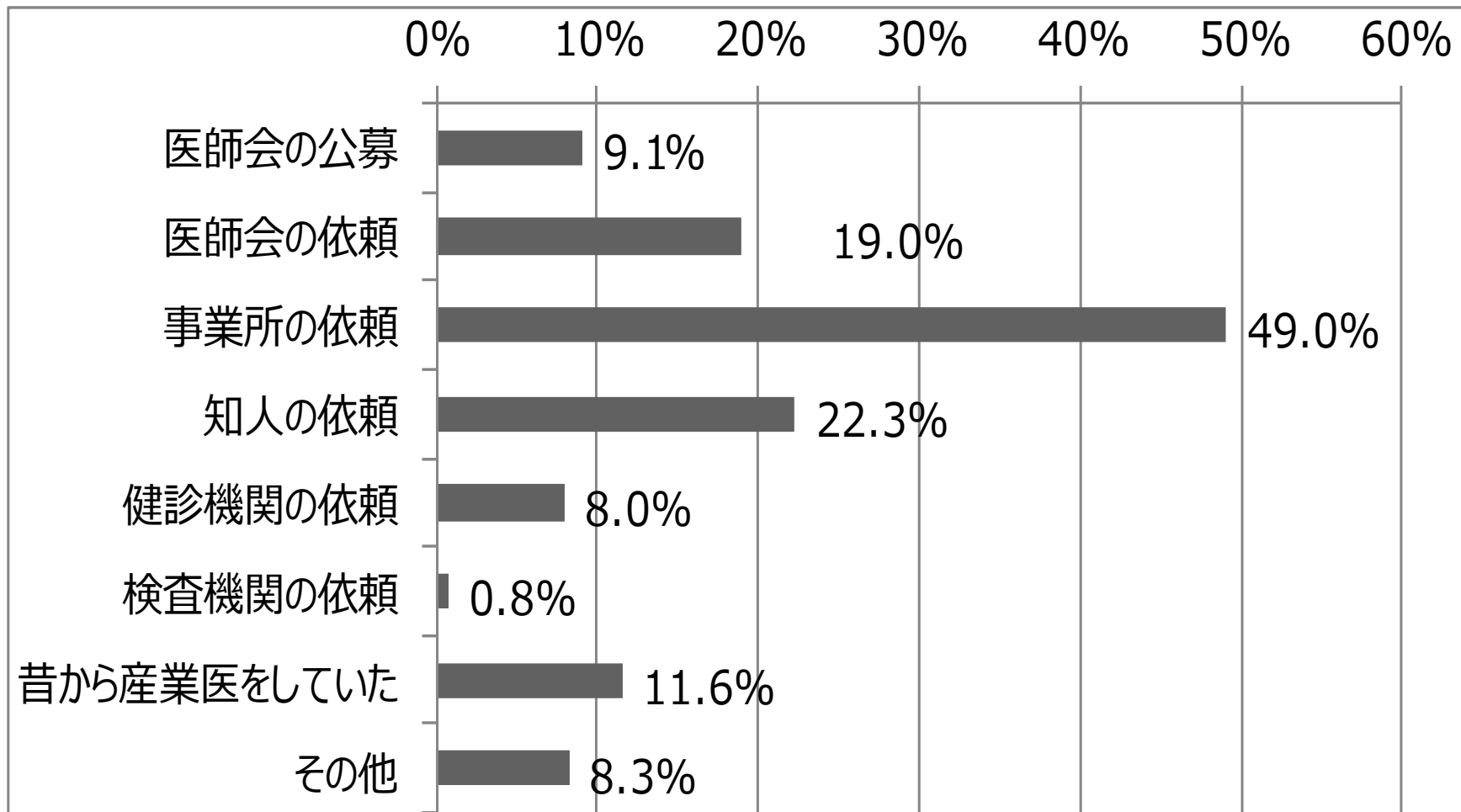
(産業医活動をしている医師のみの回答)

(複数回答可)



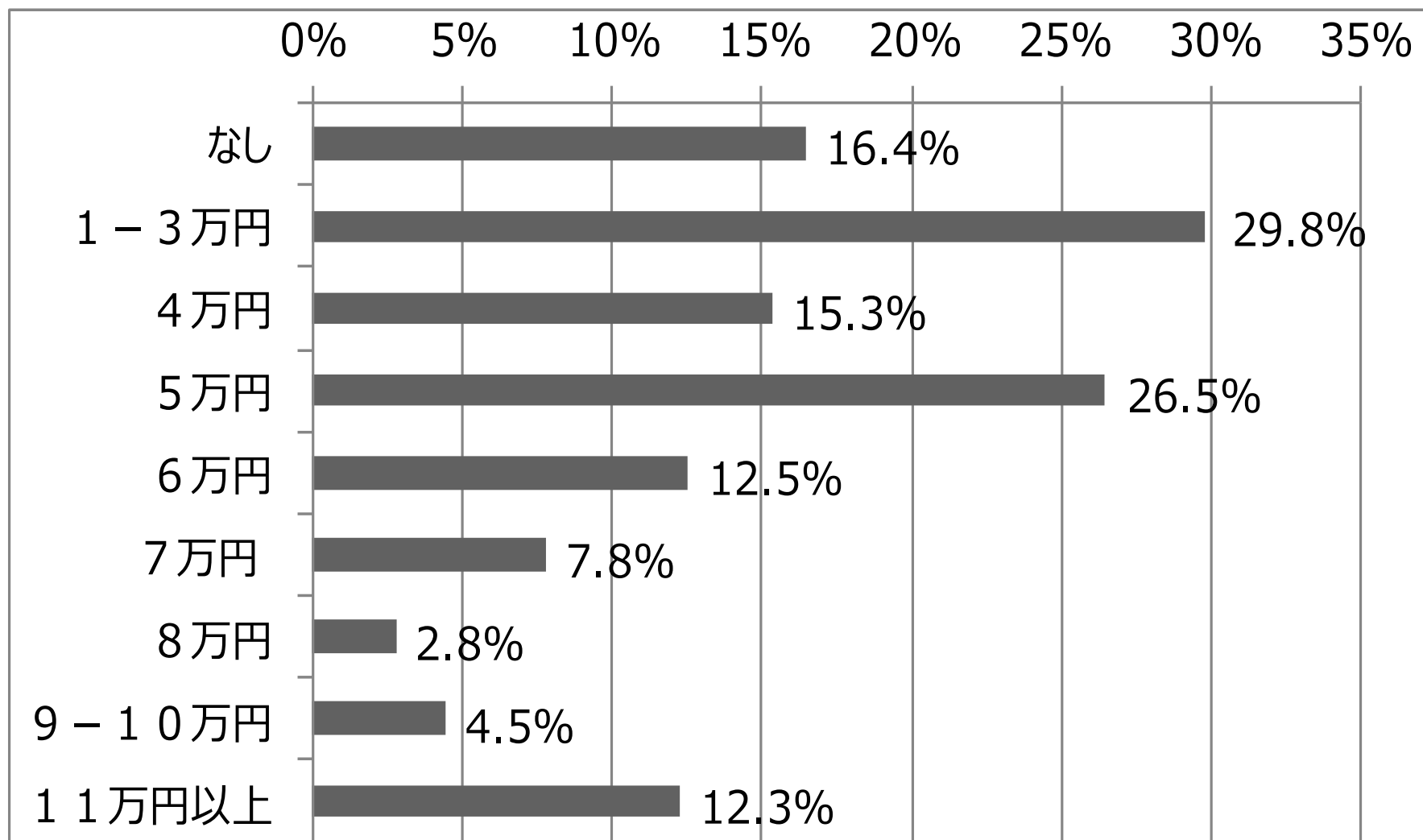
契約事業所を知ったきっかけについて

(産業医として活動をしている医師のみの回答) (複数回答可)



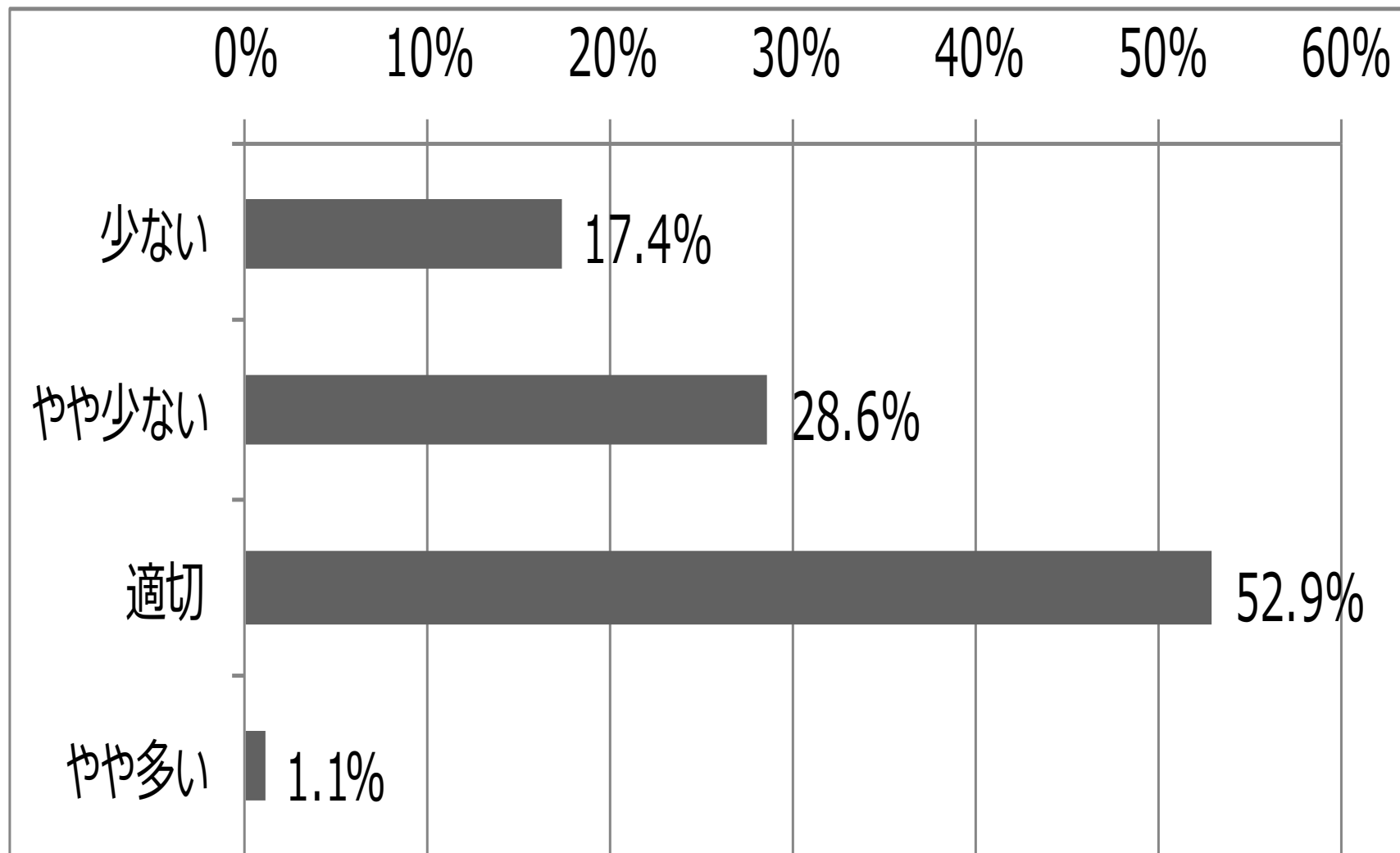
現在の産業医報酬の月額について

(産業医として活動をしている医師のみの回答) (複数回答可)

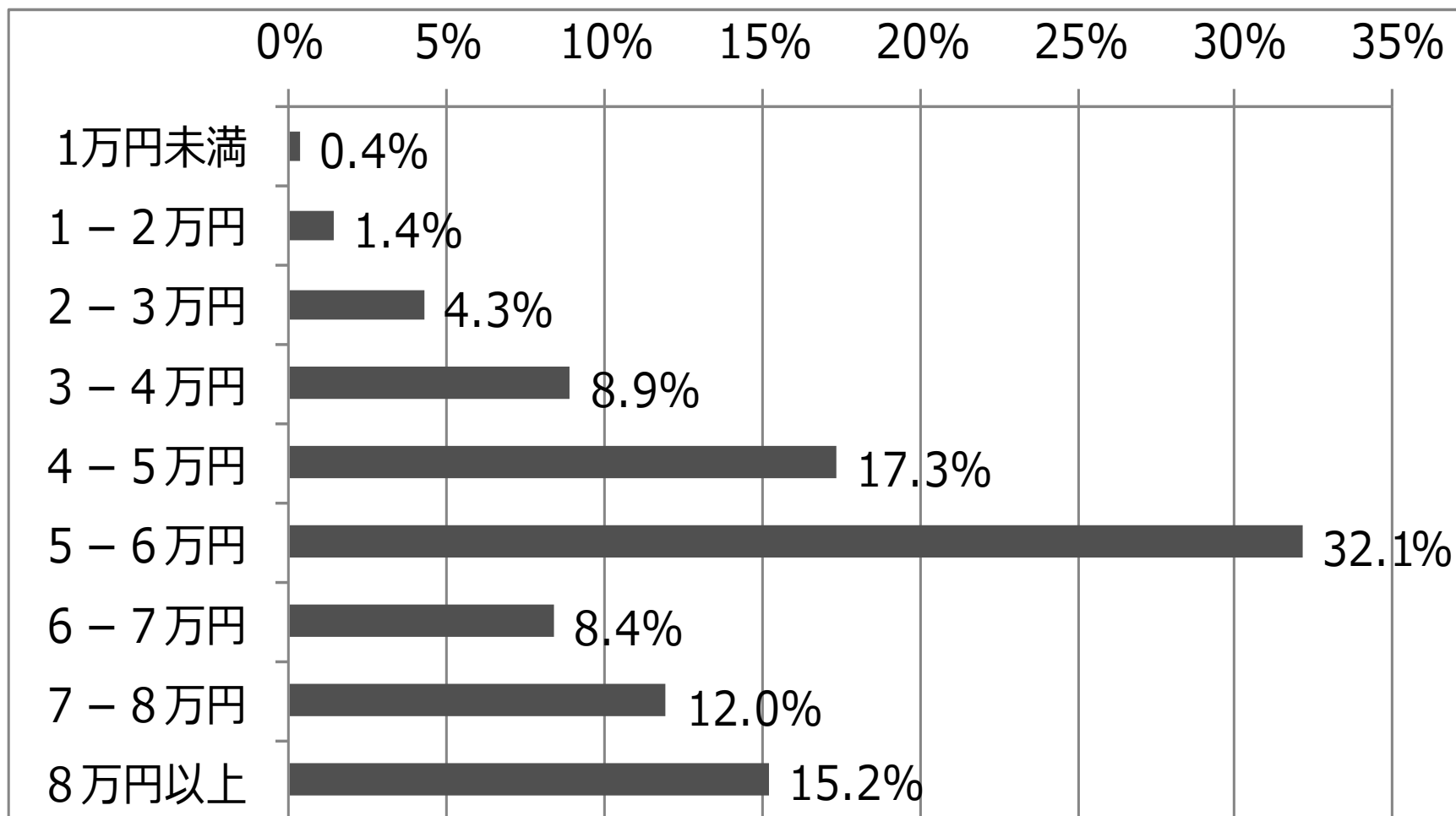


現在の報酬額が適切かどうか

(産業医として活動をしている医師のみの回答)

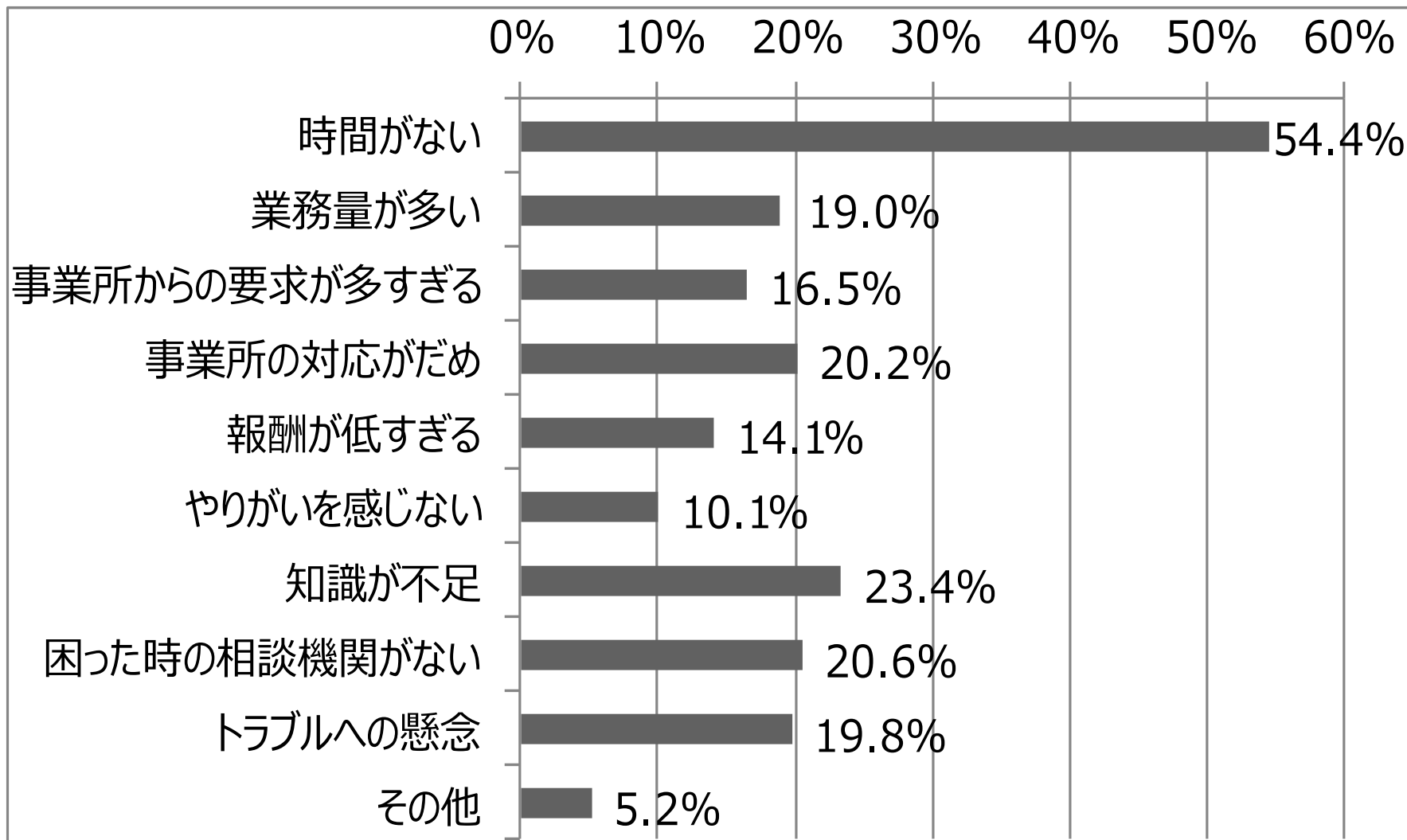


従業員数 50—100人、有害業務のない 事業所での適切な産業医報酬月額

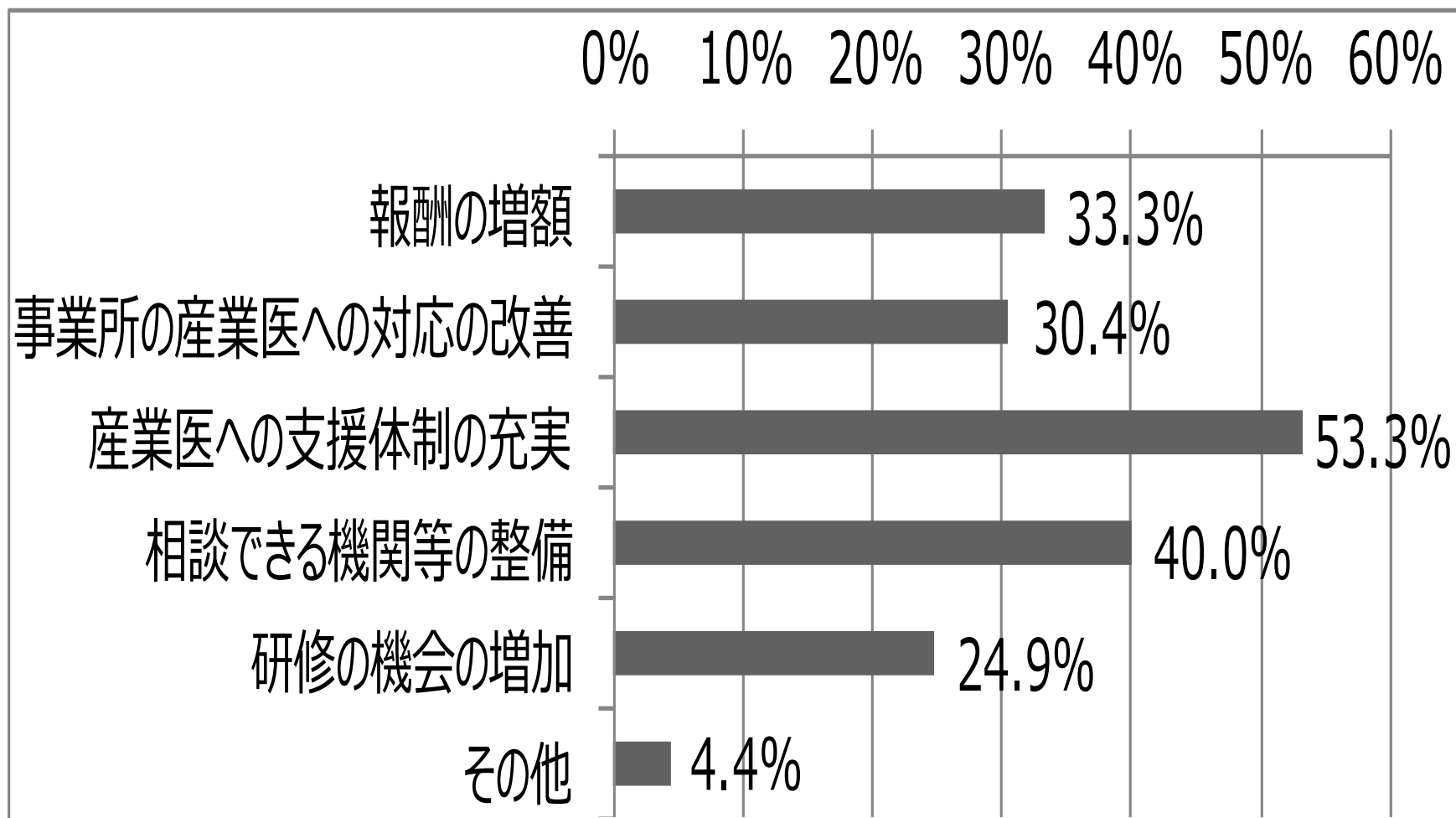


産業医活動に困難を感じる理由

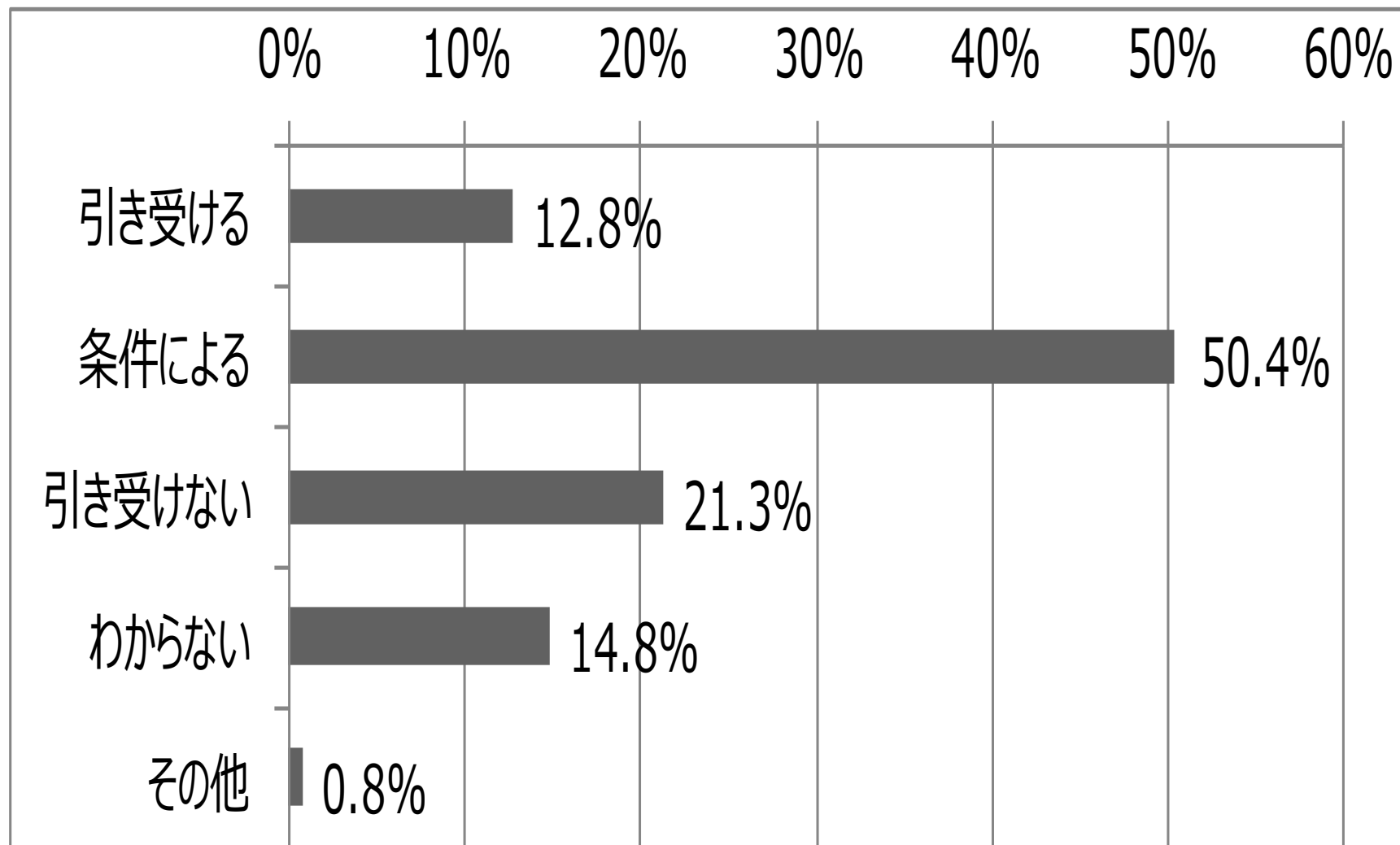
(産業医として活動をしている医師のみの回答) (複数回答可)



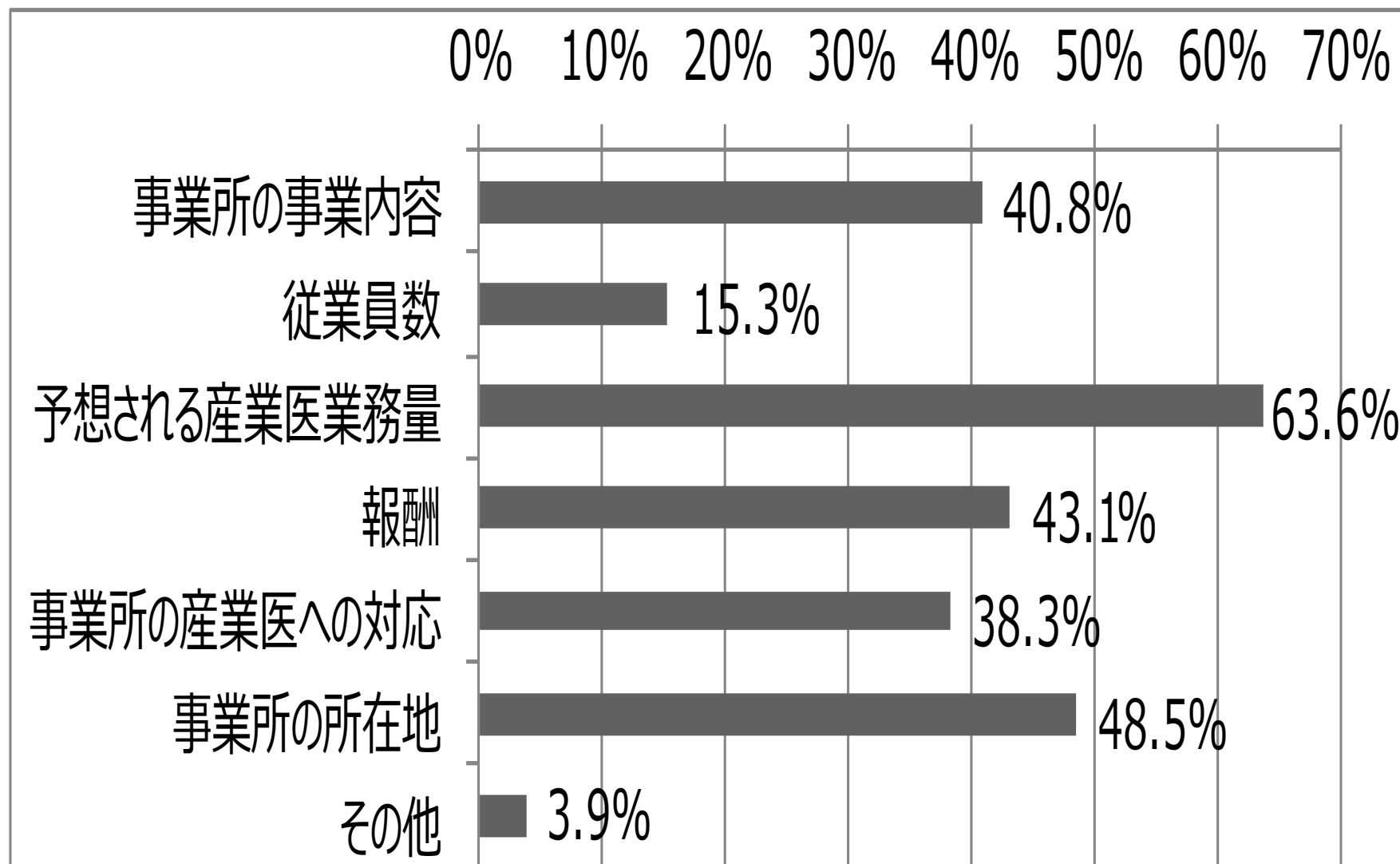
今後の産業医活動継続のために必要な事項 (複数回答可)



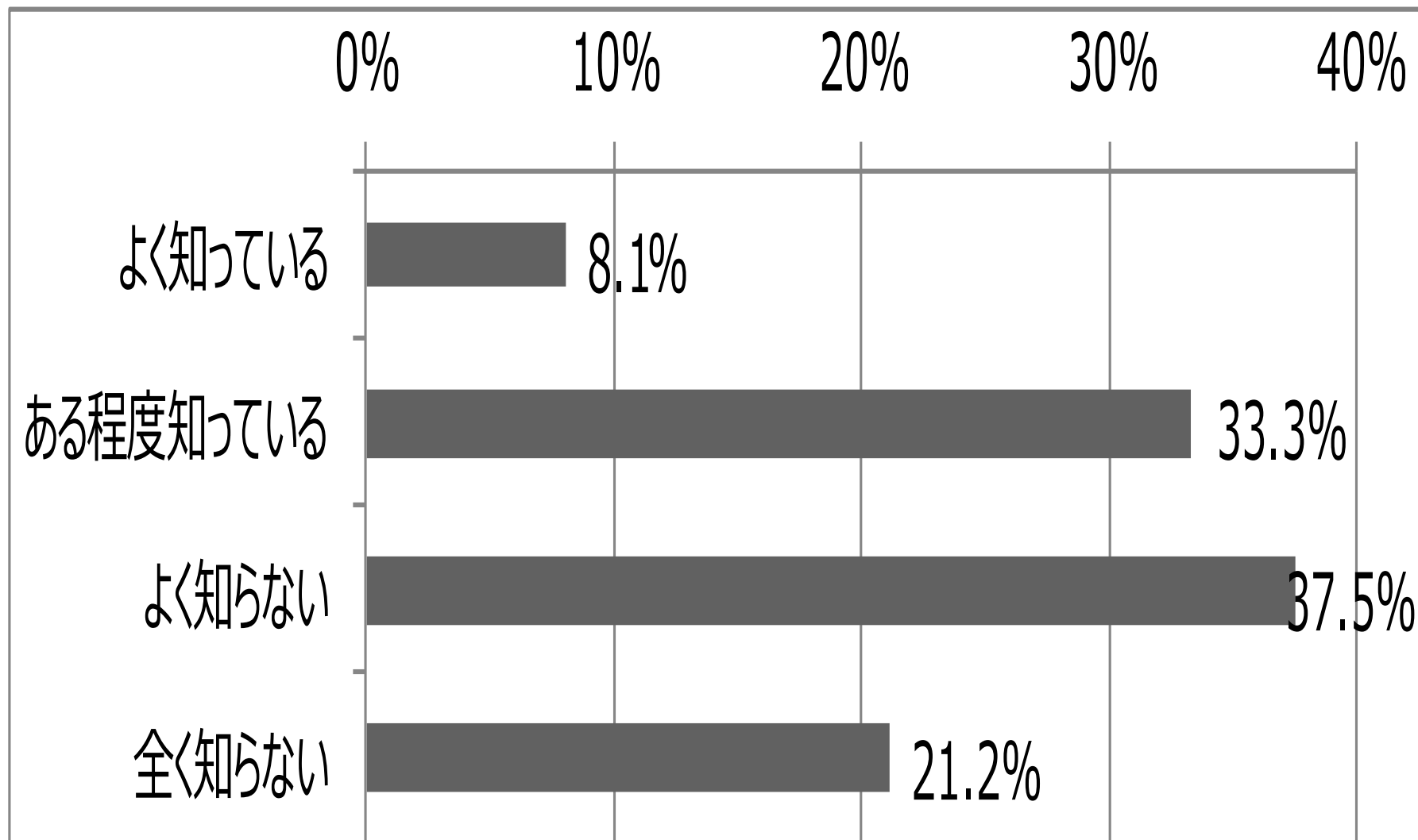
新たな産業医の依頼について



新たに産業医を引き受ける際に考慮する事項



千葉産業保健総合支援センターについて



産業医不足への対策

- 医師会所属の産業医でも4割が産業医活動をしていない事から、産業医活動をしていない産業医が活動に参加してもらえそうな方策を確立することが基本的対策である。
- 産業医活動への参加を促進するためには、業務量の適正化、事業所に近い産業医の紹介、産業医への支援体制の充実(研修機会の増加、困った時の相談機関の周知)、事業所の産業医への対応の適正化、適正な報酬の確保が必要である。
- 産業医の求人情報をいかに周知させるかを工夫すること。
- 産業医活動の意義について医師、産業医、企業、労働者に対して継続的に教育を行い、産業保健への認識を高めること。
- 千葉産業保健総合支援センターについて6割の産業医がよく知らない事から、医師、産業医に対する支援センターの活動内容の周知を徹底すること。